



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内
電話 0774-22-3141 (内線2057) FAX 20-8776

第 23 号

平成12年(2000年)4月

姉妹都市交流から真の国際交流へ

宇治市国際親善協会 副会長 長 東 元 和



外国の方々と交流するには、様々なキッカケがあります。私の場合は、宇治市が外国の三市と姉妹都市を結ばれたことにより、多くの友人を得ることができました。これらの友人とのお付き合いは、ケースバイケースですが、我が家に迎える機会も多くあります。その中で、カナダ・カムループス市から来られたビル・ロバートソン氏は、長野冬季オリンピック・カーリングの公式審判員でした。プレ五輪参加後、カリブ大学の理事も務められる関係で、宇治市と文教大学、立命館宇治高校を訪問され、我が家に滞在されました。そして、翌年(一九九八年)二月の本番に、カナダからは唯一人の審判員として

来日され、試合終了後に再び我が家を訪ねて下さいました。今までなじみがなかったカーリングというゲームも、彼のおかげで興味深く観戦することができ、彼の姿がテレビに映し出されると拍手で大いに盛り上がりました。彼が我が家に着かれてからは、記念品を見せていただいたり、内輪話を聞いたり、閉会式と一緒にテレビ鑑賞いたしました。一方、宇治、京都、奈良の文化財を訪ねたり、侍のカツラを試着していただいたりと、日本文化の紹介に努めました。



彼からは、自宅周辺の大自然や家族のこと、生活習慣などを学びました。今でも近況を知らせてくれます。また、昨秋(一九九九年)十月には、カムループス公立教育にたずさわるケン・ハウス氏が宇治市と教育関係機関を訪問され、我が家も訪ねて下さいました。彼とは、宇治大田薬を見学いたしました。姉妹都市交流は、行政間から市民へと発展してこそ、真の国際交流が生まれるのではないのでしょうか。

平成十二年度
総会の
お知らせ

宇治市国際親善協会では、平成十二年度総会を次のとおり開催します。

総会は、当協会の歩むべき方向を決定していただく、また、会員の皆様方の国際交流への熱き思いやご意見をいただくきわめて重要な会議です。より多くの会員の皆様方にご出席いただき、協会の所期の目的達成に向けた取り組みを行いたいと考えています。

総会
日時

平成十二年四月二十九日(土)
午後二時三〇分から

場所

宇治市役所八階大会議室

.....

会費の納入は、できるだけ早いうちにお願ひします。

会費は協会の血であり栄養です。これがないと、会の運営もままなりません。どうぞよろしくお願ひします。

熱烈歓迎日本宇治市

平成十一年十月七日から十四日にかけて、久保田宇治市長を団長とする咸陽市公式訪問団が友好都市・咸陽市などを訪問されました。今回の参加者は、行政訪問団（十二日まで）が四名、市民訪問団が八名の計十二名でした。

帰国後、参加された関河嘉蔵さんから、「中国陝西省咸陽市への友好訪問と中国旅行」と題した旅行記を当協会にいただきました。この旅行記は、



数々の資料と写真を交えた約四十ページにわたるもので、咸陽市訪問の様子がとてもよく伝わってきます。これを元に、今回の咸陽市訪問の様子をお伝えしようと思います

十月七日

上海で入国手続きを済ませた後、明、清代の建築の特徴が生かされた庭園豫園と上海博物館を訪ねた。上海博物館は、新石器時代から現代に至る貴重な文物が約十万点以上も所蔵されている。

西安空港に二十時に着

咸陽市人民政府を表敬訪問。この日訪問した企業や街の主要な道路には次のような歓迎の幕が掲げられていた。「熱烈歓迎日本宇治市久保田

勇市長率団訪問我市」

午後、茂陵と茂陵博物館を訪問した。茂陵は前漢第五代武帝劉徹を埋葬した方形の陵墓である。茂陵博物館の展示ケースには、前漢時代の陶器青銅器など出土器が展示。

十月九日

唐時代の皇帝十八の陵墓は渭水の北側の黄土大地に二〇〇キロの長さに造営されてき

た。博物館には昭陵の広大な領域内の出土文物が展示されている。

夕方まで、乾陵の視察と研修をした。乾陵は、唐三代皇帝高宗と則天武后の合葬陵である。これを中心に乾陵の博物館があるが、唐十八陵の中で博物館施設をもち、一般に公開しているのは昭陵と乾陵だけである。

十月十日

西安空港を小型プロペラ機で黄山空港へ出発。宋代の名残を深くする古都屯溪の観光をしながら黄山の山麓までバスで直行。

十月十一日

黄山への登山。あいにくの小雨で周囲の山々は視界が悪く、不運を嘆く。古来よりこの山の美しさは李白などにより讃えられ、現在では世界文化遺産となり世界中に有名になっている。

十月十二日

日の出を見る為に五時前に起床し、ホテルを出発。幸い美しい日の出が昇る黄山の魅力を満喫する。

十月十三日

午後、屯溪の街へ着く。宋、民明代からの商家が残る商店街での買い物を楽しむ。飛行機で上海空港へ。バスで蘇州へ出発する。蘇

州は「天に極楽あれば地に蘇州あり」と詠われた景勝地。水路が多く、独特の雰囲気を持った街で東洋のベニスともいう。

十月十四日

バスの車窓より上海市内観光後、ショッピングをする。多くの楽しい思い出を胸に上海を出発し、空路日本へ。

紙面の都合上、すべてを載せることができなくて非常に残念です。貴重な旅行記を本当にありがとうございました。

宇治市と

永遠の交流を

十一月十三日から十八日に、甘健知さん（政治協商会議咸陽市委員会副主席）を団長とする咸陽市友好訪問団（五名）が宇治市を訪問されました。メンバーは甘健知さんの他

咸陽市交通局長の李長淑さん、咸陽市地方志弁公室主任の任清芳さん、ほか咸陽市外事辦公室の二名でした。

唯一女性の李長淑さんは、建設、都市整備等を担当されていて、近年咸陽市の市街地整備が進展していることに大変自信をもっておられました。訪問中、一行は宇治市役所



と商工会議所を表敬訪問され、市役所では、百名近い市民らの歓迎を、また、商工会議所でも、大歓迎を受けました。懇談会では、全ての皆さんが「宇治は素晴らしい」を連発され、特に秋満喫の宇治川畔の景観に感激されていました。市営茶室の対鳳庵では、茶道連盟の先生の明瞭な説明もあって「おいしい宇治茶」を体験されました。今回もすばらしい交流をすることができ、訪問団の皆さんも大変満足されて帰国されました。

その後、甘健知さんからお礼の手紙が届きました。「この訪問の間、大変熱烈的な歓迎を受けました。色々な所へ行き、宇治市民と素晴らしい交流を持ちました。我々一行は大変感激しております。ありがとうございました。宇治市との永遠の交流を願っています。」

やれば楽しいホームステイ

前号でお知らせしましたとおり、平成十一年十一月二十七日〜二十八日に「きょうと探訪留学生ツアー（留学生交流ホームステイ事業）」が実施されました。参加した留学生の国籍は、中国やアメリカ合衆国をはじめ、イスラエルやドイツ、ケニヤなど二十一个国家におよび、実に様々でした。二日間という非常に短い期間でしたが、留学生のみなさんにとっていい思い出になったようです。

宇治茶歴史見学
・抹茶とお菓子がとてもおいしかった。
・すばらしいおもてなしだった。

総合野外活動センター
野外活動センターでは、留学生のみなさんとソフトボール＆ドッジボールをしました。
・留学生の友達がたくさんできました。

座禅体験
・とても神秘的
・みんな一緒に静かに座っておもしろかった。
・まだ足がいたい。

平等院
・本堂に入れなかったのが残念。
・ガイドが英語で話すことができてよかった。
・源氏物語ミュージアム
・小説をがんばって読みたい。
・映画は芸術的だった。
* * * * *
みなさん宇治市内の観光を非常に楽しまれたようです。この他、時間が

★きょうと探訪留学生ツアー日程★

1日目	10:15	宇治茶の歴史見学 (上林記念館)
	13:00	宇治市総合野外活動センター見学
	15:00	ホストファミリーとの対面式
	16:20	ホームステイ
2日目	11:00	座禅体験 (黄檗山萬福寺)
	13:00	平等院見学
	14:30	源氏物語ミュージアム 見学

光を非常に楽しまれたようです。この他、時間が



一番の思い出ホームステイ

たった一晩でしたが、多くの参加者がホームステイを一番の思い出に挙げました。留学生とホストファミリーの感想は次のとおりです。
* * * * *

留学生

- ・ホストファミリーはとても親切だった。
- ・本当に楽しかった。
- ・お母さんの料理はおいしかった。
- ・週末を過ごせて幸せ。
- ・機会があればいつか訪ねたい。

ホストファミリー

- ・一泊二日では短い。
- ・危なっかしい英語とジェスチャーまじりの会話が通じた時は本当に心があたたかくなった。
- ・お互いの知らない国について聞いたことは大変勉強になった。
- * * * * *



参加した留学生が様々な国籍であったのと同じように、ホストファミリーの方も、経験が二十回以上から初めての方まで様々でした。しかし、みなさんいろいろと工夫をしながらホームステイを楽しみました。
また、意外とお互いの国について知らないことが多かったようで、この企画が今後の国際理解の第一歩になれば、と思います。
参加してくださったみなさん、本当にありがとうございます。



日本人は四方が海である地理的条件、ほぼ単一民族単一言語、或いは宗教的にも概ね画一的な環境で過ごした長い歴史があるために、異民族との交流機会や経験が極端に少なかったように思われます。▼それはそれとして伝統文化の醸成、協調性のある国民性を育むの意義ある時間であったとも考えられます。▼従って「国際交流」や「国際親善事業」をとりわけ賞賛する気はありませんが、最近の社会の流れから見ると、外国の方々の交流が年毎に身近な事柄になってきていることは事実です。
▼自分の経験しなかった文化や、考え方に出会うのも楽しいことであり、或いは必要な時期に来ているのかも知れません。▼「宇治市国際親善協会」は「できるだけ多くの市民の方々に国際交流の機会を提供する」ような活動をしたと考えております。▼貴方も一度、参加されませんか。きっと新しい出会いが生まれるように思います。(今川)